

個別施策評価調書

部長	次長

主管部	科学技術振興部	対象年度	平成27年度
関係部	—		—
	—		—

基本施策	科学技術をまちづくりにいかす				
個別施策	27 ロボットの街つくばの推進				
個別施策の方向	モビリティロボット実験特区や国際戦略総合特区等の活用を通じて、ロボットの実用化の促進や人材育成、ロボットを活用したまちづくりを行い、超高齢社会及び低炭素社会への対応、観光等の地域活性化に貢献する。				
これまでの取組概要	<ul style="list-style-type: none"> つくばチャレンジ2015の開催 シェアリング実験拡張、モビリティロボット鉄道乗車実験等の実施 モビリティロボットスタートアップ応援事業の実施 国家戦略特区等へ規制の特例措置の提案 つくばロボットフォーラム、つくばロボットフェスタの実施 				
市民意識調査満足度	H27	48.9%	H29		参考値（第3次総合計画市民意識調査結果） 対象施策名：科学技術中枢拠点を支えるまちづくり

平成27年度決算及び事業費内訳										(単位：千円)		
H27年度決算	事業費	15,500	人件費	19,011	事業コスト	34,511						
事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	15,500		

個別施策の代表指標名	指標種別	年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31
ロボットによるまち中実証実験数(件)	成果指標	目標値	—	5	5	5	5	5
		実績	—	9	—	—	—	—
		目標値						
		実績						
		目標値						
		実績						

個別施策の総合評価	
総合評価	A 施策の成果が確認でき、このまま継続して推進させるべきである。
自己評価	<p>つくばチャレンジの実施により、ロボット技術の向上及びロボット研究者・技術者等の人材育成を行うことができた。</p> <p>モビリティロボットについては特区が全国展開され、一定の条件を満たす全国の地域で実施することが可能となり、社会実装にむけ前進した。また、更なる社会実装を目指し、国家戦略特区への提案を行った。</p> <p>さらに、ロボットフォーラムの開催やモビリティロボットスタートアップ応援事業を開始し、モビリティロボットの活用について発信していったことで、ロボットの街つくば推進事業の成果のPRにつながった。</p> <p>引き続き、社会的課題の解決に向け、モビリティロボットをはじめ、ロボットの実用化の促進やロボットを活用したまちづくり等を行うための更なる規制緩和の要請や先進的で多様な実証実験の推進・支援等を進めていくことが必要である。</p>

個別事業調書

個別施策	27 ロボットの街つくばの推進														
個別事業名	27-1	ロボットの街つくば推進事業				担当課	科学技術・特区推進課								
事業概要	つくばモビリティロボット実験特区やつくば国際戦略総合特区の枠組みを活用するなどし、ロボットの実利用に関し、国に規制緩和を要望していく。 また、搭乗型移動支援ロボットに関する実証実験やつくばチャレンジ等のロボット実験を推進する。														
工程表	年度	H26		H27		H28		H29		H30		H31			
	工程	実証実験の実施													
	事業費(千円)	16,634		15,500		20,882		23,456		23,456		23,456			
事業指標	指標名	ロボットによるまち中実証実験数(件)				年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
		目標値	—		5		5		5		5				
		実績	—		9		—		—		—				
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティロボットスタートアップ応援事業 件数13件 ・モビリティロボットシェアリング実験拡張(研究学園駅、つくば市役所) ・ロボット革命イニシアティブ協議会WG参加 ・ロボットイノベーションコンソーシアム参加 ・近未来実証プロジェクトの推進 ・つくばロボットフェスタ ・モビリティロボット鉄道乗車実験 ・つくばチャレンジ2015実験 8回 														
H27年度決算	事業費(千円)	15,500		人件費(千円)	19,011		事業コスト(千円)	34,511		正職員従事割合(人)		2.25			
									時間外勤務(時間)		860.00				
事業費内訳(千円)	国庫支出金	0		県支出金	0		地方債	0		その他特財	0		一般財源	15,500	
事業の進捗状況	達成：事業全体が当初の計画どおり達成された														
事業の有効性	高：成果が向上(高水準を維持)している														
事業の効率性	中：適切な費用対効果が得られている														
総合評価	A：成果を維持して継続実施														
課題と改善目標	まち中実証実験数は目標値を上回っているため、引き続き継続して取り組むとともに、ロボットを活用した超高齢社会及び低炭素社会への対応、観光振興に貢献するサービスとして社会実装が促進されるよう取り組む。														